



The service club to the YMCA

THE Y'S MEN'S CLUB OF TAKARAZUKA

“ TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIS EVERY RIGHT

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL OF Y'S MEN'S CLUBS CHARTERED MAY 22,1988

宝塚ワイズメンズクラブ 2026年 2月会報 第446号

宝塚ワイズメンズクラブ
〒 662-0977 西宮市神楽町
5-23
西宮 YMCA 内
Tel (0798)35-5987

HP QR コード



主 題 ・ 標 語

国際会長(IP) Edward Ong (シンガポール)

主 題 信念、愛、行動 Faith, Love, Action

標 語 共に、より強く Together Stronger

アジア太平洋地域会長(AAP) 田上 正(熊本むさし)

主 題 信念と愛を持って行動しよう

Act now with faith and Love!

標 語 YMCA,ユースと共に地域社会に貢献しよう

Contribute to local society together with YMCA and Youth!

西日本区理事(RD) 中井信一(奈良)

主 題 世界中の仲間と YYY ライフを楽しみましょう!!

Let's enjoy the YYY life together with our friends
all over the world!!

標 語 あなたに寄り添う。あなたを忘れない。

Stay with you. Never forget you.

六甲部長(DG) 柳 敏晴(神戸西)

主 題 温故知新 Visiting Old, Learning New!

標 語 六甲部にウェルビーイング!

We Rokkou-bu aims for wellbeing!

宝塚クラブ会長 多胡葉子

主 題 地域で見つかる!繋がる!ワイズ活動!

2026年2月例会

日 時: 2026年2月11日(水)18時30分

場 所: 宝塚市西公民館ホール

会 費: 1,500 円

ドライバー:

郡家 学・金岡幸宏

開会点鐘

会長 多胡葉子

ワイズソング 「いざ立て」

聖書・祈禱

小林康男

ゲスト・ビジター紹介

会長 多胡葉子

会 食

卓 話 「38年間過ごしたベネズエラから帰国して」

画家 小谷孝子 氏

委員会報告

YMCA報告

担当主事 橋本 唯

誕生日のお祝い

会長 多胡葉子

ニコニコ・ファンド

閉会点鐘

会長 多胡葉子

西日本区 2 月強調テーマ: TOF Time Of Fast

飢餓に苦しむ人々のために TOF 献金をお願いします。身近な地域でも同様の困りごとのある方々に思いを寄せましょう。地域奉仕・環境事業主任 丹吾 礼(大阪土佐堀)

2025~2026

役 員

会長:多胡葉子 副会長:福田宏子
書記:若林成幸 会計:小林康男
監査:長尾 亘、風早寿郎
担当主事:橋本 唯
メネット連絡:小林貴美子
直前会長:長尾 亘

事業委員長

Yサ:武田寿子 CS環境:金岡幸宏
EMC:福田宏子 国際・交流:岡野泰和
広報・ブリテン:若林成幸

特別事業

委員長

TIFA/NGO:小林康男
ファンド:郡家 学、多胡葉子
市民クリスマス:若林成幸

国際交流主査

石田由美子

2 月誕生日

16 風早寿朗

1 月例会実績

会員在籍数(A) 17 名
例会出席総数(B) 20 名
(内訳) 会員(C) 13 名(内ズーム 1 名)
メネット・アソシエイト 3 名(内ズーム 0 名)
ゲスト・ビジター 4 名(内ズーム 0 名)
メイクアップ(内数 D) 0 名
会員出席率 C+D/A 76.5%
例会充足率 B/A 117.6%

1 月実績 にこにこ ファンド

ニコニコ 2,000 円 (累計 32,700 円)
ファンド
タカラムネ 0 円 (累計 27,700 円)
真菰茶 0 円 (累計 3,360 円)
その他 0 円 (累計 1,800 円)
合 計 0 円 (累計 32,860 円)

今月の聖句

「わたしの魂は主を待ち望みます 見張りが朝を待つにもまして
見張りが朝を待つにもまして。」（詩編 130：6）

随想

この冬、最大の寒波と呼ばれた期間（1 月 21 日－25 日）が過ぎても、依然、厳しい寒さが続いている。毎朝、幼稚園の園児たちが登園してくるのは、早いご家庭では午前 7 時半である。「今日も寒いですね」という一言が、保護者と交わす朝の挨拶となっている。凍えながら自転車の後部座席に座ってやって来る子どもたちの姿を見ながら、この寒さが和らぐことを願ってやまない。

とはいえ、「冬」という季節は、ある意味ではキリスト教の中心であると言ってもいいのかもしれない。以下に引用する若松英輔の言葉は、まさしくそのことを示唆している。

『冬』は、四季のなかでもキリスト教と、もっとも密接な関係にある季節です。12 月 25 日、イエスの誕生を祝うクリスマスは冬の出来事です。／神の子であり、救世主でもあるイエスの誕生を『冬』に据えた。これがキリスト教の霊性です。／冬は、人々が太陽を切望する季節でもあります。光を求めるように神を求める。そのために私たちはいつも、自分のなかに『冬』を感じていなくてはならない。」

（若松英輔『日本人にとってキリスト教とは何か』）

一年のうち、太陽の光と熱から最も遠ざかる冬至の時期に、クリスマスという希望の出来事は祝われる。凍てつく寒さの中、そして地上を覆いつくす深い闇の中で、尚もやがて来る夜明けを待ち望む。それが、「キリスト教の霊性」であるのだと若松は言うのである。冒頭の詩編 130 篇の言葉は、そんな信仰者の姿勢を表す言葉であるといっていいただろう。

- ・庭上一寒梅（庭上の一寒梅） 笑侵風雪開（笑うて風雪を侵して開く）
- ・真理似寒梅（真理は寒梅に似たり） 敢侵風雪開（敢えて風雪を侵して開く）

よく知られる新島襄の漢詩の一節である。

寒さの中、風雪に耐えていち早く花を開かせる寒梅の姿に、新島は「真理」を見出す。これも、「冬」にこそ花開くキリスト教の霊性を表す言葉だといえるだろう。

私たちの人生の歩みの中にも、やはり「冬」の季節が存在する。しかしそのただ中であってこそ、やがて来る希望の芽が育まれていることを信じて、日々の歩みを進める者でありたいと願っている。

甲東教会 牧師 新堀真之

小谷孝子さんのプロフィール

福井県生まれ、大阪、東京育ち。1971 年渡米。

1977 年ベネズエラへ向かい、カラカスで本格的に絵の勉強を始める。これまでベネズエラ各地をはじめ、ニューヨーク、マイアミ、ワシントン DC、ドレスデン、ミラノ及び日本で沢山のグループ展や個展を開いてきたが、長く続く国政不安、安全保障を鑑み 2016 年日本へ帰国。今再び生まれ故郷で日々感じること、38 年生きた「第二の祖国」への思いを込め、日々の生活で出会った喜びと悲しみを東洋と西洋の「目と心」で描く。

1988 年 ベネズエラ折り紙協会創立

1994 年 ベネズエラ日本語文化学校創立

2003～2013 年 在ベ・日本大使館主催日本文化週間にて個展

2006 年 日本とベネズエラ両国間の文化普及並びに友好親善の功績で大臣賞を受ける。

2008, 201, 2018 年東京銀座・煉瓦画廊にて個展 “ベネズエラからの便り”



1 月の例会報告

新年最初の例会は 1 月 14 日 18 時半より西公民館で開催されました。多くのゲストをお迎えし、メンバーも合わせ 20 名の参加で新年最初にふさわしい賑やかな例会となりました。

今回のゲストとして紙芝居サークルちょうちょ代表の桐畑珠里さん、近藤秀子さん、遠座俊明さんの 3 人が来てくださり、紙芝居全般の知識を深めた後、実演をしていただきました。

まず最初に桐畑さんから紙芝居について絵本との違いや落語との共通点など基本的なことを教えていただきました。そのあと去年宝塚で開催された「第19回全国紙芝居まつり宝塚大会」の報告がありました。国内各地のみならず、海外(アメリカ・フランス・インド・ブラジル)からも多くの紙芝居関係者が集まり、基調講演やワークショップを開いて研鑽と親睦を深め、有意義な大会の様子を終えられたことを知りました。世界的な大会が宝塚で開催されたことに驚きと親しみを感じました。

そしていよいよ 3 人の方から紙芝居を演じていただき臨場感たっぷりにそれぞれのお話を楽しませていただきました。笑いあり、涙あり、感動ありのそれぞれの紙芝居を堪能させていただきました。始まる前には飴などを配っていただき、私たちも童心に帰って紙芝居の世界にどっぷりと浸かることができました。古くからのお話もあれば、関西万博をネタにした新作、落語を紙芝居にしたものなど多彩な紙芝居の世界を存分に楽しませていただき、笑い涙がいっぱいの豊かな時間となりました。紙芝居は演者と聴衆が間近で心を通わせる素晴らしいエンターテインメントだと改めて実感しました。

紙芝居サークルちょうちょのみなさん、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

岡野泰和



第二例会 議事要旨

2026年1月23日

日時 12月10日(水)午後6時00分～8時00分(大寒波襲来、開始時間を早めて例会を持つ)

場所 宝塚市立西公民館301号室

出席 多胡会長、石田、岡野、金岡、小林、郡家、武田、福田、長尾、若林、計 10名

議題

1) 2月例会に関して

- ・ 日時 2月11日(水)18:30～20:30 宝塚市立西公民館2階ホールにて
- ・ 卓話 小谷孝子さん「38年間過ごしたベネズエラから帰国して」
福岡県生まれ大阪、東京育ち。1971年渡米。
1977年ベネズエラへ移り、カラカスで本格的に絵の勉強を始める。

2) YYY フォーラム(Yサ)

日時 1月24日(土)13:30～15:30 神戸YMCAにて

内容 若者にとっての居場所の意味～ユースワークの視点から考える～

講師:青山鉄平氏(文教大学人間科学部准教授・東京YMCA野尻学荘副社長)

参加予定 多胡・福田・石田

3) NGO 展(宝塚国際協力フェスタに改称)に関して(小林)

日時 3月14日(土)～15日(日) (準備は13日午後から)宝塚市国際文化センターにて
14日 11時からのクラブ活動プレゼン実施(若林が担当)。その他詳細は2月第2例会で確認。
なお、14日は六甲部評議会と重なるのでアソシエイトに協力をお願いする。

4) 六甲部評議会(多胡)

日時 3月14日(土)14時から 神戸YMCAにて。会員の出席義務あり、欠席の場合は委任状を。
なお、次期六甲部キャビネット人事に関し、次期部長 杉本ワイズから事務局長適任者の人選要請があったが、協議の結果、「事務局長の必要性に疑義あり」との見解から、再考を求めることにした。

5) きらりと輝くアート展に関して(金岡)

日時 3月26日～29日(但し、26日は搬入日) 兵庫県立文学館(王子公園)にて

- ・実行予算に関して、会場使用料・その他の経費で約12万円の出費が見込まれる。西日本区CS助成金5万円が決定したので不足額7万円は六甲部各クラブに1万円の拠出を求めたい、と説明があった。Q&Aを行い、これを了承した。
- ・期間中、午前午後に分かれて各クラブから3人が受付などの任に当たる。宝塚クラブは29日(日)の午前中に当番の予定。詳細は2月第2例会で。次回実行委員会 3月14日(土)午前10時から

6) 神戸YMCA 日本語スピーチコンテスト(Yサ)

日時 3月4日(水) 場所 長田区文化センター

協賛金として六甲部各クラブへ5,000円の協力要請があり、これを了承した。

なお、ワイズ協力の証として「ワイズ賞」新設を求める声あり。

7) 1月～3月にかけての各部、クラブの特別例会及び部会、周年行事など(交流)

- ・神戸西クラブ特別公開例会

日時: 2月28日(土) 14:00～16:00 神戸YMCA

内容:野口義邦ワイズ(弁護士)の出版記念講演。「少年に付き添う人」

- ・第30回 びわこ部部会

日時 2月15日(日) 14:30～

8) その他の行事

- ・第2回防災チャリティ公演 令和7年度バレエ・ポップン出演ほか

日時 2月28日(土) 15:00 ベガホール。チケット10枚の販売に協力する。

- ・神戸ポートクラブ主催、能登半島被災地支援チャリティコンサート

日時 4月25日(土)14:00～ 神戸聖愛教会 チケット10枚預かりあり

- ・大阪なかのしまクラブ主催、ミャンマー支援チャペルコンサート

日時 5月16日(土)14:00～ 岡本教会 @3000円

- ・大阪サウスクラブ・京都パレスクラブが夫々4月18日に周年記念例会を予定。

- ・岡山クラブ60周年記念例会 5/23(土)14～18時 ラヴィール岡山 会費:1万円

9) 2月号 ブリテン(若林)

寄稿分担を次の通り確認。投稿期限1月28日、発行2月1日

第1例会・・・岡野、第2例会・・・若林、聖句・随想・・・新堀牧師、YYYフォーラム・・・多胡 or 石田

ワイズの震災記念日(揚がれ希望の風・・・福田、生き生き人生・・・長尾、写真で「宝塚「生」の祈り、ほか」

他クラブ訪問(神戸ポート例会)・・・多胡、NGO 展予告・・・小林、YMCA・・・橋本、誕生日・・・風早、

10) その他

- ・DBCへ贈るバレンタインチョコ詰合せ作業会 1月28日(水)15時 西公民館

- ・西日本区から個人ブースター賞(1年間に3名以上の新入会員を紹介)の申請→該当者なし

- ・YMIからの質問状「YMI活動に対するクラブの姿勢アンケート」に回答→会長対応

- ・第75回国際大会(9/10～13)ドバイで開催。岡野ワイズ家族が参加予定。

以上

ワイズの震災記念日あれこれ

まちづくり協議会で講演

宝塚市まちづくり協議会から「生き活きと輝く年の重ね方」のスピーカーの依頼がありました。ワイズメンズクラブの話、12月の「クリスマスキャロル」を21年続けている事、阪神大震災から「揚げ希望の凧」の話をしました。話の後、グループ討論が持たれ各グループから素晴らしい発表がありました。そして、スピーカーの代表として纏めをしました。時間が無かったので、一言「健康が第一、自分の周りには家庭、友達、仲間が居ます。仲良く、沢山作る事です。それが生き活き過ごす秘訣です」と纏めました。そして家に帰って娘に話したら、お父さんは、ワイズにも音楽仲間がいて実行しているねと言われました。 長尾 亘



掲がれ！ 希望の凧！

阪神淡路大震災 31 周年を迎えた、1 月 17 日(土)、阪神自立の家にて「揚げがれ！希望の凧！」と題して、宝塚クラブより多胡会長、若林夫妻、小林夫妻、青柳、石田、福田の 8 名が凧の絵付け、凧あげに参加した。

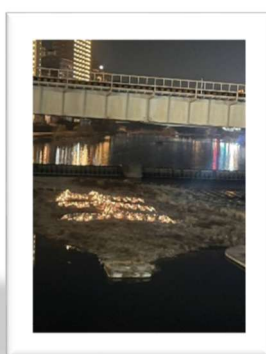
幸運にも素晴らしい穏やかなお天気に恵まれ、風も雲もなく、武庫川河川敷「むこにゃん広場」はサイクリングを楽しむ数名の方が行き交う静かな午後であった。

特に最近では世界情勢が安定せず、あちらこちらで戦火が上がり、罪のない多くの人々の尊い命が奪われているのは許されるべきではなく、これらの事実は否定できない！ 色とりどりの凧は我々の世界平和の祈りを乗せて、天高く舞い上がった。！

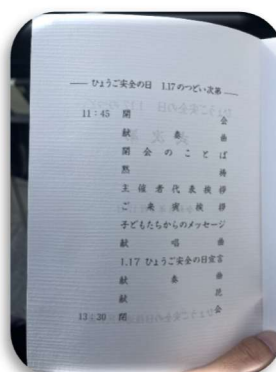
その後、室内では紙芝居、平和を願うフラに思いを馳せ、一日も早い世界平和の到来を祈るばかりであった。 福田宏子



明石大橋、祈りのライトアップ



宝塚「生」の祈り



ひょうご安全の日
一・一七のつどい



震災記念日礼拝で震災の記憶を語る

YYY フォーラム 2025

1月24日(土)、13:30から神戸 YMCA で今年度のYYYフォーラムがワイズメンズクラブ六甲部共催、県内5つのNPO 団体等の後援のもとに開催された。

講師は文教大学人間科学部准教で東京 YMCA 評議員など多くの活動をされている青山鉄兵さん、「若者にとっての居場所の意味」と言う演題で約2時間熱く語られた。

70名以上の参加者は「スグキク」と言うセミナー参加型アプリにアクセスし、質問や意見などチャットをリアルタイムで共有できる進め方で反響が直ぐ分かり非常に興味深く楽しめた。

子ども・若者の居場所への社会的関心が高まっている中「居場所とは」「なぜ必要か」「居場所となる為の条件」など改めてスタートから考えるいい機会になった。これは子ども・若者だけに必要なものなのか？大人にとっても同様ではないのか、等を考えると、現在の世の中の生きにくさが浮き出してくる。規制・コンプライアンスなど1ミリでもずれればアウトとされる時代にいつからなったのか、ゆるゆるの頃が懐かしい、と福田宏子さん、多胡葉子さんと昔話をしながら寒波の中を震えながら無事帰宅。



石田 由美子

神戸ポートクラブの例会に出席

1月7日に開催の神戸ポートクラブのスピーカーが長尾ワイズのパートナー、ひろみさんとの連絡が入り、是非出席をと石田、福田、多胡の3人ででかけました。

参加者はポートのメンバー13人を含みゲストビジター共に34人。さすが長年YMCA、ワイズに関わり世界へ羽ばたき多くの人々に大きな影響を与えてこられたひろみさんの現在のお働きを是非知りたいと思って多くの方々が集まられたと。

現在取り組まれている瀬戸内グローバルアカデミーのお働きに関してのお話を伺った。

神戸女学院で通訳学を教え、その後2010年から広島女学院の学長を務められた。高等教育の現状から新たな時代の高等教育を日本で立ち上げ若者を育てていきたいとの思いで瀬戸内海の島に瀬戸内グローバルアカデミーを立ち上げられた。そして米国のリベラル・アーツ大学と連携して国際的に活用できる若者を育てる教育を実施されているとのこと。

いつもパワフルな素晴らしいお働きを10年ごとのスパンでされているひろみさんの歩み方に大いに励まされたポートクラブでの例会参加だった。

多胡 葉子



「宝塚国際協力フェスタ」 案内

宝塚国際交流協会主催の「第27回宝塚国際協力フェスタ」が3月 14 日(土)・15 日(日)の 2 日間、宝塚市立国際・文化センター(阪急宝塚南口駅前 サンビオラ 1 番館 3 階)で開催されます。

昨年までは「宝塚 NGO 活動紹介展」として行われていましたが、このタイトルでは内容が分かりにくいということで、名称を変更することになりました。

今年度は「つなげよう！ 平和のバトン」のテーマで、ギャラリーではいろいろな国を支援している NGO 団体や国際交流を図っている民間大使がそれぞれの活動内容を展示したり、支援活動のための物販を行ったりします。宝塚ワイズメンズクラブも活動内容の展示と「真菰茶」や「たかラムネ」の販売をします。またお楽しみタイムとして、14 日(土)にはインドネシアの伝統舞踊、15 日(日)には南インドの伝統舞踊の演技が行われます。その他外国人支援のためのフリーマーケットやエスニック喫茶など盛り沢山の内容がありますので、お友達にも紹介していただき、多数ご来場くださるようお願いいたします。なお、メン及びアソシエイト会員の方は交代で展示ブースの受付をお願いします。

小林 康男

神戸 YMCA ピンクシャツデー2026 にむけて

「ピンクシャツデー」は 2007 年、カナダの 2 人の学生から始まったいじめ反対運動です。日本の YMCA はこれに賛同し、毎年 2 月の最終水曜日に全国各地でイベントを実施。

教職員や子どもたちがピンク色の服や小物を身に付けていじめ反対をアピールするほか、いじめに関する授業を行うなど、いじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す 1 日としています。

YMCA では「いじめのない世界」の実現に向けた大切な考え方の一つとして、「YMCA キャラクターディベロップメント運動」があげられます。

この運動は、米国 YMCA の取り組みを日本の YMCA に合わせてアレンジしたものです。人が共に生きていく上で大切な価値として、4 つのキーワードを掲げています。これらはキリスト教的価値観に基づき選定されていますが、日本においても古くから大切にされてきた普遍的な考え方や行動でもあります。

CARING	思いやり・・・やさしくする
HONESTY	誠実さ・・・正直でいる
RESPECT	尊敬心・・・人を大切に思う
RESPONSIBILITY	責任感・・・自分でがんばる

「ピンクシャツデー2026」を迎えるにあたり、今回は改めて「YMCA キャラクターディベロップメント」に立ち返ってみましょう。特に 4 つの価値の一つである「人を大切に思う(尊敬心)」に焦点を当て、自分たちの日常を振り返ってみませんか。いじめのない世界の実現に向けて、まずは身近なところから行動を積み重ねていきましょう。

橋本 唯

誕生日一言エッセー

天馬行空。既成概念にとらわれず、
想いと未来をつなぐ年。

2月16日 風早寿郎

